

当院は高齢で high risk 症例が多いため腹腔鏡下手術適応に関して十分な検討を要しているが、結果として high-risk 患者に対しても安全に施行可能であった。1年間の初期成績と今後の展望などについて報告する。

15 当科における胸部食道癌に対する腹臥位胸腔鏡補助下食道切除術 (Prone VATS-E) の導入

内藤 哲也・長谷川 潤・谷 達夫
井上 真・萬羽 尚子・下田 傑
仲野 哲矢・島影 尚弘

長岡赤十字病院外科

当科では平成23年4月より胸部食道癌に対して腹臥位胸腔鏡補助下食道切除術(以下、Prone VATS-E)を導入した。導入初期7例(以下、VATS群)の成績を報告する。Prone VATS-E 導入以前に右開胸手術を施行した7例(以下、開胸群)を比較対象とした。平均年齢は、開胸群68.7歳、VATS群67.6歳。総手術時間(平均)は、開胸群413分、VATS群485分。胸部操作時間(平均)は、開胸群202分、VATS群246分。出血量(平均)は、開胸群328ml、VATS群161ml。郭清縦隔リンパ節個数(平均)は、開胸群26.9個、VATS群26.9個。抜管までの期間(平均)は、開胸群3.1日、VATS群0.3日。術後在院日数(平均)は、開胸群32日、VATS群24日。呼吸器合併症は、開胸群1例、VATS群1例。反回神経麻痺は、開胸群2例、VATS群4例。今後更なる技術の向上と術式の定型化を図り、症例を蓄積したいと考える。

16 腹腔鏡-内視鏡合同胃部分切除の経験

武者 信行・関 慶一*・森本 悠太
番場 竹生・田邊 匡・桑原 明史
坪野 俊宏・酒井 靖夫

済生会新潟第二病院外科
同 消化器内科*

胃の間葉系腫瘍で管内発育型の場合や、局在が食道胃接合部や幽門輪近傍の場合は、的確な切除範囲の設定が困難であり、時として過大な切除範囲が設定され胃の変形も高度になり得る。また早期胃癌に対する腹腔鏡下胃局所切除として1992年、大神らにより lesion lifting 法が開発されたが、その適応となる症例はESDの進化に伴い内科に移行した。そのような中、潰瘍瘢痕を伴う分化型線癌で3cm以下の病変はESDの適応拡大病変であるが、ul3もしくはul4などの高度潰瘍瘢痕を有する症例はESDによる切除が困難であり、切除しえても標本は病理検索に耐えぬことが想定される。以上のようなケースを対象に胃壁の全層切除を目的とした、腹腔鏡-内視鏡合同手術として、比企らにより2008年LECSという手技が、井上らにより2009年CLEAN-NETという手技が紹介されている。今回、当科で過去1年間に腹腔鏡-内視鏡合同胃部分切除を施行した5例に関し、患者背景、短期成績を手技の供覧と共に提示し、少数例の経験からではあるがCLEAN-NETの汎用性につき言及したい。

17 子宮体癌に対する腹腔鏡下子宮全摘術

関根 正幸・杉野健太郎・森 裕太郎
水野 泉・鈴木 美奈・安田 雅子
遠間 浩・安達 茂実

長岡赤十字病院産婦人科

【緒言】初期子宮体癌に対しての腹腔鏡手術は、標準術式として確立されてはいないものの全国9施設で高度先進医療として認められ、その成績が報告され始めてきている。当科にて施行した子宮体癌1a期に対する全腹腔鏡下子宮全摘術(Total